

大樹海と動物たち



三国峠から見る十勝三股の大樹海

山麓に広がる大樹海

三国峠から十勝三股方面の大展望。最近カルデラであることが明らかにされた三股盆地に、針広混交林の大樹海が広がっている。この国立公園でも最も奥深い地域である。広大な大雪山の森林には、ヒグマをはじめ、エゾシカ、キタキツネ、エゾリス、シマリス、オコジョなどの哺乳類、シマフクロウ、クマゲラなど多くの鳥類がすんでいる。目撃記録が大雪山地域でわずかにあるだけの幻の鳥ミユビゲラも確認されている。また、キンメフクロウも、繁殖が確認されたのは東大雪地域だけだ。



キタキツネ



ヒグマ

ヒグマは大雪山国立公園では全域に生息しており、縦走路などで足跡を見ることがある。人とのトラブルを防ぐために、p14に記したように、高原温泉地区でヒグマ情報センターを中心として具体的な活動が始まっている。

原生林の主



シマフクロウ

エゾシカ

エゾシカは北海道のほぼ全域で個体数が増加しており、大雪山地域でも道路上から姿を見る機会が多い。増加したエゾシカは、樹木や高山植生、あるいは農作物への食害を起こしているほか、自動車とエゾシカの衝突事故が発生するなどの問題も起こっている。このため、国や自治体では、食害などの影響を正確に把握するための調査を進め、利用者への注意喚起と事故防止に努めている。また、北海道は、個体数管理の取り組みを始めている。



エゾリス

Column

大陸に近い北海道の動物相

日本の中、北海道と本州以南では、生息する動物の種類がかなり異なっている。たとえば、哺乳類ではツキノワグマ、二ホンザル、カモシカ、イノシシなどは北海道には生息せず、逆にヒグマ、クロテン、シマリスなどは本州以南には生息しない。

これは、北海道と本州が、氷河期以降の海面上昇によって早い時期に隔てられ、陸生動物の行き来ができなくなったためである。これに対し、サハリンや、サハリンを通じて沿海州とはより遅くまで陸続きであって、移動ができたため、これらの地方と共通性が強い。ただ、沿海州やサハリンには分布していても北海道には生息しない動物もあるし、北海道から九州まで分布する日本固有の種類もある。

巣箱の設置



洞爺丸台風

昭和29（1954）年9月に北海道を襲った台風15号は、青函連絡船洞爺丸を転覆させ、多数の犠牲者を出したことから「洞爺丸台風」と呼ばれる。この台風は、北海道の森林に空前の風害をもたらしたが、最も大きな被害があったのは大雪山地域であった。



今、半世紀前の被害の痕跡を探すのはむずかしいが、林相が一変したと言われるほど大量の風倒木が生じたのである。このような大災害は何百年かの周期で起こる、森林の循環のひとつの過程なのかもしれないが、暗い森を作っていた巨木の消失は、森林内の乾燥化を招き、動物相にも影響を与えていると考えられる。

